



大銀杏

根 城



南部師行公

2020年度 第10号

八戸市立根城中学校 令和3年3月26日発行

跳ね返せ 逆境を 赤・青・緑の 有終の美

今年度の学校だよりは、市中体夏季大会の本校スローガンに採用された、2年1組の関美南さんの作品「跳ね返せ 逆境を 燃える闘志を一つの輪に」を基にして、“跳ね返せ 逆境を”シリーズで通してきました。右の写真は卒業式後に「わかれの合唱“群青”」を歌う卒業生です。前日の予行は、保護者席に在校生が座り、本番さながらに行いました。2年生のある生徒は「歌を聴いて身震いがした」とか「卒業生の真剣な態度を見て、最高の会場を準備したいという思いが強まった」と述べています。予行がすばらしかったので、当日の式は更にレベルアップしました。悔しさに耐えてきた卒業生は、最後の最後まで讃えられるべき集団でした。



在校生も負けてはいません。3月3日の1年生の希望式では、入学時に比べて大きく成長した姿を見せました。最後の合唱では、指揮者の合図で一斉にマスクを外し、高らかに歌い上げました。3月16日に延期された2年生の立志式では、書道や演舞パフォーマンス、メインの立志宣言、学年合唱等、しなやかに真剣な姿を披露しました。

3月の2週間において、緑学年、赤学年、青学年それぞれが主役となるステージが繰り広げられ、見る側に大きな感動を呼び起こしてくれました。体育館に3色の有終の美が咲き誇りました。1年間の活動を振り返ってみると、今回のタイトルは“跳ね返した 逆境を”がふさわしいと思います。

再会を願い…

今日2階中央廊下の北校舎側に1枚の油絵が飾られます。馬の親子が描かれています。とても澄んだ眼差しが、絵の前に立つ者を見つめています。七戸町出身の画家、白石芳春氏の作品で、「再会」と名付けられています。

絵の中の2頭は、形のうえでは馬の親子ですが、上級生と下級生、教師と生徒、コーチと部員と捉えることもできます。目に見えない敵である新型コロナウイルスと闘ってきた令和2年度の根城中学校の生徒と教職員が一堂に会するのは、今日の離任式で最後となります。いつかどこかで再会し、「あの1年間は悔しさや不安が渦巻いていたけれど、みんなしっかり立って前を見ていたなあ」と、マスクなしで振り返りたいものです。

地域の皆様、保護者の皆様、今後も根城中学校への応援をお願いします。



以下の文章は、今年度の中学校長会研究紀要「木鶏」に寄せたものです。学校だよりには私的なことを載せて恐縮ですが、これが自分自身を的確に表していますので、退職に免じご容赦ください。※一部修正

振り返り 今更ながら 気がついた 教員らしい 足跡のなさ

大学5年生での教員採用試験が採用につながっていなければ、八戸市内のホームセンター会社の住宅部門に就職していた。「捨てる神」よりも「拾う神」に救われてきた37年間を綴る。

☆三本木中学校（昭和59～昭和63）

力量不足ながら3年間持ち上がり送り出せた卒業生は、教員生活における宝物である。生徒の父親に呑み仲間として認められ、生徒宅に泊まり、翌朝はそこから出勤することも珍しくはなかった。

☆根城中学校（昭和63～平成3）※昭和から平成への改元

全校生徒は1200名超。先輩教員に呑み仲間として認められ、週に3日は長横町経由で帰宅。当時は映画を見れば生徒にもオリオン駐車場の2時間無料券が配られていた。生徒にとっては無用の長物だが、私が発行する宿題免除券と交換できたため、どんどん集まり常に30時間分の無料券を保有していた。

☆白銀南中学校（平成3～平成13）

異動内示までは学校の施設自体を知らなかった。職員集団の和が生徒に好影響をもたらすことを知った。校内合唱コンクールの意義を胸に深く刻み、今年度のコロナ禍においても意義を失わずに実施できた。

☆大館中学校（平成13～平成15）

学年主任として1年生の生徒を残していくのが忍びなく、彼らの卒業まで行事に2年間足繁く通った。体育祭での用具係や卒業祝賀会二次会での余興を任された。学期末の反省会でも皆勤賞を獲得した。

☆八戸市総合教育センター（平成15～平成19）

長期休業を失うことが嫌で、市教委の人事担当者に「もし断ったら？」と尋ねたら、「既にお前の戻る場所はない」と言われた。小学校の先生方との様々な出会いが後々の財産になった。

☆三条中学校（平成19～平成21）

着任直後、11月の創立60周年式典の計画は無に等しいことを知らされたが、保護者と地域の熱意によりサヨナラ満塁逆転ホームランが生まれた。教頭の仕事は無限に湧き続けることを悟った。

☆根城中学校（平成21～平成24）※東日本大震災

特色溢れる校長の下で割と楽しい時を過ごした。「問題が起こらないのがいい学校とは限らない。何か起こった時にどう対応するかが大切だ。」と教わった。これはその後の学校経営に生き続けている。

☆八戸市階上町田代小学校中学校組合立田代小中学校（平成24～平成26）

子どもの素朴さと素直さの陰に様々な環境下で健気に生きる強さを垣間見た。地域の飲み会に出席して記憶を持ち帰ったことはない。今でも年1回は拾い集めに行くが、同じ事の繰り返しである。

☆八戸市総合教育センター・教育指導課（平成26～平成30）

途絶えていた職員旅行の復活と教育指導課へ異動後の教育センターとの合同旅行では、行き先が函館になるようアンケートの裏工作を行った。2回の中国蘭州訪問により人生が更に楽しくなった。

☆根城中学校（平成30～令和3）※平成から令和への改元&新型コロナウイルス

保護者や地域の皆さんをはじめ、多くの顔馴染みの方々が“安心して過ごせる学校づくり”を後押ししてくれた。職員の協力態勢には頭が下がった。我慢の連続でも前進する生徒の姿に笑みと涙が交差した。

綴り終えて何度読み返してみても、教育的信念や情熱などは見出せない。標記タイトルは正に最適である。しかし、どの職場においても「周りに支えられ、いろいろな出会いがあり、人に恵まれ、楽しく呑んだ」ということは一貫している。大人も生徒も含め、これまでお世話になった拾う神々に対して謝意と敬意を捧げるとともに、安心して過ごせる根城中学校づくりの進展を祈念し、この辺でペンを置く。カタッ。